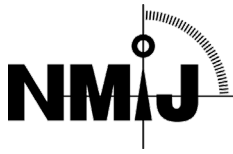


国立研究開発法人 産業技術総合研究所
計量標準総合センター 標準物質認証書認証標準物質
NMIJ CRM 3408-a01窒素希釈酸素 (10 μmol/mol)
Oxygen in Nitrogen (10 μmol/mol)

本標準物質は、ISO GUIDE 34:2009 および ISO/IEC 17025:2005 に適合するマネジメントシステムに基づき生産された窒素希釈酸素であり、分析機器の校正に用いることができる。

【認証値】

本標準物質の認証値は以下の通りである。認証値の不確かさは、合成標準不確かさと包含係数 $k=2$ から決定された拡張不確かさであり、約 95 % の信頼の水準をもつと推定される区間の半分の幅を表す。

物質名	CAS 番号	認証値 物質質量分率 (μmol/mol)	拡張不確かさ 物質質量分率 (μmol/mol)	容器記号番号
酸素	7782-44-7	9.01	0.19	CPB32036

【認証値の決定方法】

本標準物質の認証値は、国際単位系 (SI) にトレーサブルな調製法である質量比混合法 (ISO6142(2001)) による調製濃度に基づいて決定した。またその不確かさは、質量比混合法の不確かさ、調製濃度の検証に用いた熱伝導度検出器付きガスクロマトグラフ (GC-TCD) 分析法の測定の不確かさ、安定性、残圧依存性による不確かさを合成して得られたものである。

【計量計測トレーサビリティ】

本標準物質は、SI にトレーサブルな精密電子天秤、分銅および原料ガスを用いて産業技術総合研究所において調製した。従って、本標準物質の認証値は SI にトレーサブルである。

【有効期限】

本標準物質の有効期限は、下記の保存条件のもとで 2016 年 3 月 31 日である。

【形状等】

本標準物質は、常温では無色のガスであり、内容積 9.5 リットルのアルミニウム合金製高压容器詰め形で供給される。容器バルブの口金は、22mm φ 14 山右である。供給時の容器内圧力は、ゲージ圧力で 5 MPa (35 °C において) 以上である。

【保存に関する注意事項】

本標準物質は、高压ガスであるので、高压ガス保安法にしたがって保存すること。容器の保存は、直射日光を受けないようにし、40 °C 以下の通風の良い場所で行うこと。容器は、転倒などを防止する処置を講ずること。安全データシート (SDS) を参考にして保存すること。

【使用に関する注意事項】

減圧弁、バルブ、配管、計測器等の中のガスを本標準物質で十分に置換してから使用すること。配管の継手などからの漏洩が無いことを確認すること。残圧がゲージ圧力で 1 MPa 以下になったときは使用をやめること。

【取り扱いにおける注意事項】

高圧ガス保安法に従って取り扱い、保管や容器の返却を行うこと。窒息性を有するので、酸素欠乏に注意すること。SDS を参考にして取り扱うこと。本認証標準物質が不要となった場合、あるいは有効期限が過ぎた場合は、計量標準普及センターに返却すること。

【製造等】

本標準物質は、酸素標準ガス（NMIJ CRM 3404-a）をジャパンファインプロダクツ株式会社製高純度窒素で質量比混合法により希釈して調製したものである。

【参考情報】

本標準物質には、0.3 μmol/mol ～ 1 μmol/mol のアルゴンが含まれている。

【生産担当者】

本標準物質の生産に関する技術管理者は下坂琢哉、生産責任者は下坂琢哉、値付け担当者は下坂琢哉、高田佳恵子である。

【情報の入手】

本標準物質に関して認証値の変更等、重要な改訂があった場合、下記ホームページから「標準物質ユーザー登録」を行った購入者に通知する。なお、本標準物質に関する技術情報は、下記連絡先より入手できる。

【認証書の複製について】

本認証書を複製する場合は、複製であることが明瞭にわかるようにしなければならない。

2015年4月1日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
理事長 中鉢 良治

本標準物質に関する質問等は以下にご連絡ください。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター
計量標準普及センター 標準物質認証管理室
〒305-8563 茨城県つくば市梅園 1-1-1

電話：029-861-4059、ファックス：029-861-4009、ホームページ：<https://unit.aist.go.jp/qualmanmet/refmate/>

改訂履歴

2015.04.01 組織名称等の変更に伴い、関連する記載内容を変更した。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
計量標準総合センター 標準物質認証書認証標準物質
NMIJ CRM 3408-a02窒素希釈酸素 (10 $\mu\text{mol/mol}$)
Oxygen in Nitrogen (10 $\mu\text{mol/mol}$)

本標準物質は、ISO GUIDE 34:2009 および ISO/IEC 17025:2005 に適合するマネジメントシステムに基づき生産された窒素希釈酸素であり、分析機器の校正に用いることができる。

【認証値】

本標準物質の認証値は以下の通りである。認証値の不確かさは、合成標準不確かさと包含係数 $k=2$ から決定された拡張不確かさであり、約 95 % の信頼の水準をもつと推定される区間の半分の幅を表す。

物質名	CAS 番号	認証値 物質質量分率 ($\mu\text{mol/mol}$)	拡張不確かさ 物質質量分率 ($\mu\text{mol/mol}$)	容器記号番号
酸素	7782-44-7	9.55	0.19	CPC00403

【認証値の決定方法】

本標準物質の認証値は、国際単位系 (SI) にトレーサブルな調製法である質量比混合法 (ISO6142(2001)) による調製濃度に基づいて決定した。またその不確かさは、質量比混合法の不確かさ、調製濃度の検証に用いた熱伝導度検出器付きガスクロマトグラフ (GC-TCD) 分析法の測定の不確かさ、安定性、残圧依存性による不確かさを合成して得られたものである。

【計量計測トレーサビリティ】

本標準物質は、SI にトレーサブルな精密電子天秤、分銅および原料ガスを用いて産業技術総合研究所において調製した。従って、本標準物質の認証値は SI にトレーサブルである。

【有効期限】

本標準物質の有効期限は、下記の保存条件のもとで 2016 年 3 月 31 日である。

【形状等】

本標準物質は、常温では無色のガスであり、内容積 9.5 リットルのアルミニウム合金製高压容器詰め形で供給される。容器バルブの口金は、22mm ϕ 14 山右である。供給時の容器内圧力は、ゲージ圧力で 5 MPa (35 $^{\circ}\text{C}$ において) 以上である。

【保存に関する注意事項】

本標準物質は、高压ガスであるので、高压ガス保安法にしたがって保存すること。容器の保存は、直射日光を受けないようにし、40 $^{\circ}\text{C}$ 以下の通風の良い場所で行うこと。容器は、転倒などを防止する処置を講ずること。安全データシート (SDS) を参考にして保存すること。

【使用に関する注意事項】

減圧弁、バルブ、配管、計測器等の中のガスを本標準物質で十分に置換してから使用すること。配管の継手などからの漏洩が無いことを確認すること。残圧がゲージ圧力で 1 MPa 以下になったときは使用をやめること。

【取り扱いにおける注意事項】

高圧ガス保安法に従って取り扱い、保管や容器の返却を行うこと。窒息性を有するので、酸素欠乏に注意すること。SDS を参考にして取り扱うこと。本認証標準物質が不要となった場合、あるいは有効期限が過ぎた場合は、計量標準普及センターに返却すること。

【製造等】

本標準物質は、酸素標準ガス（NMIJ CRM 3404-a）をジャパンファインプロダクツ株式会社製高純度窒素で質量比混合法により希釈して調製したものである。

【参考情報】

本標準物質には、0.3 μmol/mol ～ 1 μmol/mol のアルゴンが含まれている。

【生産担当者】

本標準物質の生産に関する技術管理者は下坂琢哉、生産責任者は下坂琢哉、値付け担当者は下坂琢哉、高田佳恵子である。

【情報の入手】

本標準物質に関して認証値の変更等、重要な改訂があった場合、下記ホームページから「標準物質ユーザー登録」を行った購入者に通知する。なお、本標準物質に関する技術情報は、下記連絡先より入手できる。

【認証書の複製について】

本認証書を複製する場合は、複製であることが明瞭にわかるようにしなければならない。

2015年4月1日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
理事長 中鉢 良治

本標準物質に関する質問等は以下にご連絡ください。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター
計量標準普及センター 標準物質認証管理室
〒305-8563 茨城県つくば市梅園 1-1-1

電話：029-861-4059、ファックス：029-861-4009、ホームページ：<https://unit.aist.go.jp/qualmanmet/refmate/>

改訂履歴

2015.04.01 組織名称等の変更に伴い、関連する記載内容を変更した。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
計量標準総合センター 標準物質認証書認証標準物質
NMIJ CRM 3408-a03窒素希釈酸素 (10 $\mu\text{mol/mol}$)
Oxygen in Nitrogen (10 $\mu\text{mol/mol}$)

本標準物質は、ISO GUIDE 34:2009 および ISO/IEC 17025:2005 に適合するマネジメントシステムに基づき生産された窒素希釈酸素であり、分析機器の校正に用いることができる。

【認証値】

本標準物質の認証値は以下の通りである。認証値の不確かさは、合成標準不確かさと包含係数 $k=2$ から決定された拡張不確かさであり、約 95 % の信頼の水準をもつと推定される区間の半分の幅を表す。

物質名	CAS 番号	認証値 物質質量分率 ($\mu\text{mol/mol}$)	拡張不確かさ 物質質量分率 ($\mu\text{mol/mol}$)	容器記号番号
酸素	7782-44-7	9.96	0.19	CPC03007

【認証値の決定方法】

本標準物質の認証値は、国際単位系 (SI) にトレーサブルな調製法である質量比混合法 (ISO6142(2001)) による調製濃度に基づいて決定した。またその不確かさは、質量比混合法の不確かさ、調製濃度の検証に用いた熱伝導度検出器付きガスクロマトグラフ (GC-TCD) 分析法の測定の不確かさ、安定性、残圧依存性による不確かさを合成して得られたものである。

【計量計測トレーサビリティ】

本標準物質は、SI にトレーサブルな精密電子天秤、分銅および原料ガスを用いて産業技術総合研究所において調製した。従って、本標準物質の認証値は SI にトレーサブルである。

【有効期限】

本標準物質の有効期限は、下記の保存条件のもとで 2016 年 3 月 31 日である。

【形状等】

本標準物質は、常温では無色のガスであり、内容積 9.5 リットルのアルミニウム合金製高压容器詰め形で供給される。容器バルブの口金は、22mm ϕ 14 山右である。供給時の容器内圧力は、ゲージ圧力で 5 MPa (35 $^{\circ}\text{C}$ において) 以上である。

【保存に関する注意事項】

本標準物質は、高压ガスであるので、高压ガス保安法にしたがって保存すること。容器の保存は、直射日光を受けないようにし、40 $^{\circ}\text{C}$ 以下の通風の良い場所で行うこと。容器は、転倒などを防止する処置を講ずること。安全データシート (SDS) を参考にして保存すること。

【使用に関する注意事項】

減圧弁、バルブ、配管、計測器等の中のガスを本標準物質で十分に置換してから使用すること。配管の継手などからの漏洩が無いことを確認すること。残圧がゲージ圧力で 1 MPa 以下になったときは使用をやめること。

【取り扱いにおける注意事項】

高圧ガス保安法に従って取り扱い、保管や容器の返却を行うこと。窒息性を有するので、酸素欠乏に注意すること。SDS を参考にして取り扱うこと。本認証標準物質が不要となった場合、あるいは有効期限が過ぎた場合は、計量標準普及センターに返却すること。

【製造等】

本標準物質は、酸素標準ガス（NMIJ CRM 3404-a）をジャパンファインプロダクツ株式会社製高純度窒素で質量比混合法により希釈して調製したものである。

【参考情報】

本標準物質には、0.3 μmol/mol ～ 1 μmol/mol のアルゴンが含まれている。

【生産担当者】

本標準物質の生産に関する技術管理者は下坂琢哉、生産責任者は下坂琢哉、値付け担当者は下坂琢哉、高田佳恵子である。

【情報の入手】

本標準物質に関して認証値の変更等、重要な改訂があった場合、下記ホームページから「標準物質ユーザー登録」を行った購入者に通知する。なお、本標準物質に関する技術情報は、下記連絡先より入手できる。

【認証書の複製について】

本認証書を複製する場合は、複製であることが明瞭にわかるようにしなければならない。

2015年4月1日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
理事長 中鉢 良治

本標準物質に関する質問等は以下にご連絡ください。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター
計量標準普及センター 標準物質認証管理室
〒305-8563 茨城県つくば市梅園 1-1-1

電話：029-861-4059、ファックス：029-861-4009、ホームページ：<https://unit.aist.go.jp/qualmanmet/refmate/>

改訂履歴

2015.04.01 組織名称等の変更に伴い、関連する記載内容を変更した。